

学院通信 第290号



50年のあゆみと 未来を見据えて…

今から半世紀前、ここ南英の地に小学部19名でスタートした立教英國学院も、今では、新入生52名を迎える、総勢194名の大家族となりました。

バブル崩壊やリーマンショック、ブレグジット、そして新型コロナウイルスと、激動の50年の中、それでも変わらないもの、それは校章に刻まれた『Pro Deo et Patria』の精神です。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい（ヨハネ15:12）』という聖書のお言葉のように、異なる文化や価値観とふれ合いながら、たがいにいたわり、たがいに励まし合える、次の50年もそうあり続けられますように。

Contents...

* ブルーベル散策

* スクールアウティング

* 球技大会

* ハーフターム

* 現地校との交流

* 対外試合

* みどりあふれる立教

* 小学部の外出

* 創立50周年記念感謝並びに2022年度第1学期終業礼拝

* ケンブリッジ大学研修



毎年恒例のブルーベル散策を行いました。

ブルーベルは、日本ではあまり聞き慣れないかもしれません、イギリスの春に咲く花で、名前の通り、青色で鈴の形をしています。日本で言う、いわば桜のような存在です。

立教英國学院では、この広い敷地の森の中でたくさん咲いています。森に広がるブルーベルは、紫の絨毯のようでとても美しいです。美しいだけではなく、リラックスもできる空間です。

一度で良いから寝てみたいです！

このような絶景はイギリスの森でしか体験できません。



(中学部1年生 広報委員)



毎年恒例 ブルーベル散策

毎年恒例

希少な
ホワイトベル
も発見！





先月、今学期初めてのアウティングでDoverに行きました。

コーチの中から見えるイギリスの道路は、信号が縦になっていたり、当たり前だけど、道路の標識が英語になっていたりと、驚きと発見がたくさんありました。

到着したときは、天候が悪かったため、ピクニックが中止になりましたが、各学年で、好きなお店に行き、昼食を食べたりショッピングをしたりしました。

その後、お待ちかねのWhite Cliffを見に行きました。ラッキーなことに、このときは雨が止んで、晴れてきていたので、イギリスに一番近いフランスが見えました。崖の頂上からの景色は絶景です。Dover Castleの外観も見ることができました。

近くのお土産ショップには、この絶景が写っている、マグネットやポストカードなどがありました。この景色を見れない家族にお土産として買いました。

そして、帰りのバスでまぶしい日差しを浴びながらCranleighへと向かいました。自分が好きなお店で夕食をテイクアウトし、時間があった人はスーパーでジュースやお菓子などを買いました。ここでも家族にイギリスらしいお土産を買うことができました。

学校に帰って来てからは、学年ごとに分かれて夕食を食べました。今日のアウティングの話題でとても盛り上がりしました。あっという間に、時間が過ぎ1日がとても早く感じました。コロナ禍の中、無事にアウティングに行ってとても嬉しかったです！！



(中学部1年生 広報委員)

スクール アウティング





高校2年生のスクールアウティング第一訪問地は英国南海岸の観光名所ブライトン。数年前に突如ビーチ沿いにお目見えしたBritish Airwaysが運営する地上162メートルのブライトンタワー（通称i360）に「搭乗」しました。

高校2年生全員が乗ってもなお広々とした巨大なガラス張りの円盤。それがゆっくりと地上を離れ、ブライトンの街並みと穏やかに波が打ち寄せる海岸線が少しずつミニチュア化していく様はまるで映画を見ている心地。友達と写真を撮りあったり、遠くの水平線を見つめながら物思いにふけったり、中央のバーカウンターで飲み物を買ったり、丸い大きなフロアを何周も歩きまわったりと、30分間の「フライト」をそれぞれ思う存分満喫していたようでした。

ここまででは生憎の雨模様でしたが、ブライトンを出発する頃には大きな空もきれいに晴れ渡り、眩しく光る海岸線を眺めながら次の目的地、アランデル城へと向かいました。

今もなお由緒正しいイギリス人貴族が暮らしているというこのお城は、ヨーロッパからの観光客もよく訪れる観光スポットです。威風堂々とした外見はもちろん、内部にある沢山の部屋も驚くばかりのスケールと「本物感」に溢っていました。各部屋に案内の方がいて、ふとした質問にも気軽に答えてくれます。「英語を話す」というよりは、「不思議に思ったことを英語で聞いてみる」くらいの感覚で自然に会話が出来る辺りは流石高校2年生。目の前のダイニングや図書館、チャペルなどが実際に使われている時の様子を聞きながら、イギリス文化の奥深さを肌で感じたひとときでした。

そして最後の訪問地は地元ホーリー・ショウブの街。既にハイストリートのお店は閉まっている時間でしたが、街の奥の方にあるレストラン街は少しずつ金曜の夕暮れ時の活気を帯び始めていて、その中をグループ毎に三々五々お目当てのレストランに入って行く生徒達の姿は何とも頼もしい限りでした。約2時間のディナータイムを食後のデザートまで存分に楽しめたグループも沢山あったようです。

コロナ禍の日常の中でとてもいい刺激、そして気分転換になった一日でした。



- PM ... Dover
- H1 ... Seven Sisters
- H2 ... Brighton & Arundel
- H3 ... Portsmouth

Photo Report



おそろいの
ぬいぐるみ
ゲット！



うしろにも
注目...!



なかなか
見かけない
白い崖を
パシャリ📸



く、組体操！?



Student's Essay < Outing >

楽しみとワクワクのDOVER

初めてのアウティングはDOVERでした！

今回は初めてのアウティングなのでとにかく楽しみ、思い出をたくさん残したいと思っていました。前日から準備をはじめましたが、当日は残念ながら雨の予報だったので雨具を入れました。最後に、リュックにワクワクと楽しみをたくさん詰め込みました。

そして、待ちにまつた当日、予報通り雨でしたが、そんなことよりもワクワクと楽しみのほうが大きかったので、雨はおまけサイズでした。ちなみに、ここ、イギリスではbusのことをcoachというらしいです。初めて知りました。僕は乗り物酔いがひどいので、学校を出発して20分ほどですでに気持ち悪さが限界に来てしまいました。途中のパーキングエリアで1度バスを停めてもらって、外の空気を吸いました。運転手さんに感謝です。

DOVERにつくまで、景色は同じようなものがずっと続いていましたが、1時間ほど経ったあたりで急に景色が変わり、大きな白い崖が現れました。なんだろう…と思っていたら、先生が「これがDOVERです」と言いました。「えっ…でか！これがDOVER!?」、予想していた8倍は大きかったです。街はレンガでできている建物が多く、イギリスらしさを感じました。まずは街でお昼ご飯をたべたり、みんなでサングラスを買ったりしたのち、待ちに待ったDOVERの崖の上へ！歩いて崖を登りました。途中までは草で辺りの景色が見えなかったのですが、草がなくなるとそこには絶景が広がっていました。フランスも見えました。

中1のみんなで写真を撮り、僕も携帯で写真を撮りました。崖には柵もないでとても怖い思いをしました。崖の下にはDOVERの港があり、大きな船がたくさんとまっていました。

先生は「心が綺麗な人にしか、DOVERからフランスは見えない」と言っていましたが、僕にはフランスが見えました。

その後は、再びCoachに乗り、Cranleighという村に行きました。Cranleighでは夕飯のテイクアウトとお買い物をしました。スーパーで僕が買ったものは、みんなと飲むための1.5Lのコーラ、そして甘いチョコレートです。そして、事前に予約しておいた焼き餃子とチャーハンとチキンスープを受け取りました。合計で11.2ポンドでした。高いのか安いのかはわかりません。

学校に戻ってきて机の上に買ってきていたものを出してみると、友達もコーラを買ってきており、全部は飲みきれないほどでした。お菓子もたくさん食べて、その日はお腹が破裂するかと思うほどでした。その後解散して、初めてのアウティングは終わりました。

初めてのアウティングはとても楽しかったです。先生方が準備を頑張ってくれたおかげもあり、coachのドライバーさんが1日中運転してくれたおかげもあり、色々な方の協力があってこそ実現できたことだと思います。学校に帰ってきて、リュックを開けたら楽しかった良い思い出が入っていました。

先生方、ありがとうございました！！！！！！

(中学部1年生 男子)

【他の作文ヘリンク】

[小中学部](#)

[高等部](#)

Student's Essay < Outing >

小さな喜び

今回のアウティングは、ブライトン、アランデル城、そしてホーシャムと、今まで行ったことのない場所3連発の旅でした。今回は、新たな学びが得られたというよりも、気持ちをリフレッシュすることのできるいい機会だったなと思います。立教にいるとあまり気にかけない景色を堪能できたり、クラスメートと一緒に過ごす時間を満喫できたりと、行く先々で小さな喜びに溢れた一日でした。そんな一日を忘れないように振り返ろうと思います。

まずブライトンでは、あいにくの雨模様でした。バスから降りて10分もしないうちに靴の中が水たまりと化してしまったので、どんよりした気持ちで友達と話しながら目的地のi360に向かって歩きました。私たちの班は景色を撮影するのが好きな子が集まっていて、ブライトンらしい風景を沢山カメラに収めようと、写真会が繰り広げられているようでした。ブライトンの印象はすっかり雨になってしましましたが、幸運なことに途中から雨がやみ、澄んだ空と海、そしてi360とをしっかり捉えたベストショットを撮ることができたのですごく晴れ晴れとした気持ちになりました。

次に向かったのはアランデル城です。坂の下からお城を見上げた時、草花とマッチしていたためかおとぎ話に出てくるような雰囲気でした。城内には、普段見慣れない動物のカーペットや模型、天井につきそうなくらい高くて華やかなクイーンベッドなどがあり、実際にここで優雅な暮らしをしていたのだと考えると不思議な気持ちにもなりました。また、見学の途中で、ともこさんという方に展示品の説明をしてもらったことも印象深いです。お城の中にすてきな礼拝堂があったのですが、元王族のたった一人の力によって日々の礼拝がオーガナイズされていたということまで知ることができました。

最後に向かったのはホーシャムです。私たちの班は、まず目星をつけていたお店を回ってみようという作戦で、少し遠いところにあった中華料理屋さんに行ってみました。無事にたどり着けたのは良かったのですが、中国風の雰囲気に圧倒されてしまい、入るのを断念しました。中華のお店に行くには少し勇気がいることを学んだので、今度は入りやすそうなお店を探してから是非行ってみたいなと思います。とはいえ、その後入ったイタリアンのお店では、店員さんが明るく親切に接してくださったのでとても素敵な時間を過ごすことができました。特に、店員さんがわざわざ「Enjoy」は日本語では何て言うの?と質問てきて、その後ちゃんと日本語で「楽しんで!」と言ってくださったり、最後には一緒に写真を撮ったりと、日本とは違ったサービス精神があってすごくいいなと感動しました。

あっという間に今回のアウティングも過ぎ去ってしまったけれど、ちょっと変わった日が一日だけでもあるとすごく心が満たされるんだなと実感しました。これを機に、立教生活の中でも日々の小さな楽しみや喜びを見つけ出していくといけたらいいなと思います。

(高等部2年生 女子)

[【他の作文ヘリンク】](#)

[小中学部](#)

[高等部](#)



この球技大会は自分にとって楽しむ側でもあり樂しませる側でもあったので楽しみが2倍になった、そんな感じのイベントでした。一学期の頭から準備して。でも、一回壊れて。何回も話し合って準備して新しい風を吹かせられた気がします。もちろん伝統とか昔の人の話を大切にすることもそうだけど、僕は新しいものを作り出すのが好きなので、立教の伝統と新鮮さをかけ合わせて、球技大会といういい作品が仕上がったのかなと思います。

来年はより一層みんなが楽しめる新しい作品を作りたいと心に決めました。楽しむ側では、サッカーも練習の時から同じチームの人と笑顔で楽しめたし、本番も勝てたのでものすごく満足のいくものでした。応援合戦でもSkyチームとコラボで漫才をしてわかせることができたし、最後の選抜リレーまで気持ちよく楽しむことができました。もちろん大変なものだったけどやりがいとか楽しさとか、なんか色々な感情が舞い込んできた気がします。

(高等部2年生 男子〈体育委員長〉)



Student's Essay << Sports Day >> 1/2

MVPはワタシ。

最初に書いておくと私はかっこいい先輩たちのように球技で活躍もしなかつたし、MVPも取らなかった。けれど確かにあの日、私はMVPな気分だったのだ。

天候に恵まれた5月最後の日曜日。目覚めもよく迎えたその日は、なんだか良いことが起こりそうな予感があった。

朝の支度をしながら、私は今日この一日がどんなものになるかとあれこれ思案を巡らせた。この球技大会で、私が乗り越えなければならないイベントは大きく3つ。選択種目のポートボール、応援合戦のダンス、そして選抜リレーだ。ポートボールとダンスは余裕だ。沢山練習したのだ。心配することはほとんどない。問題はチーム対抗の選抜リレーだ。なにしろほとんど練習する暇がなかった。バトンパス練習だって、片手で数えられる程度しかできていない。そして私は第4走者、つまりアンカーだ。「緊張」以外にどんな言葉が私を埋め尽くすだろうか。

爽やかな水色のTシャツに目をやる。まだ書き込みが少ないのでチームTシャツは、先輩たちが可愛らしくデコレーションしてくれたものだ。表面上に書かれた手書きの文字が目に入る。

「MVPはワタシ。」

少しふざけていて意味もよくわからないこのメッセージは前日に大好きな先生に書いてもらったものだ。大きく胸の中心に書かれていて（私がそう注文した）、存在感のあるこれは私にとって一番大切なメッセージだった。

そう、今日の私はMVPなのだ。そんな気持ちでリレーに臨もう。なにしろ朝から何かと調子が良い。去年は書いてもらえなかった先生からのメッセージもゲットし、機嫌も良い。この調子でいけば上手いく。

開会式が終わりそれぞれの種目の試合が始まっていく。友達の試合を観戦したり、先輩たちとメッセージを書きあったりしているうちにポートボールの出番になってしまった。

なんか、調子悪いな。そう思うことが度重なった。

塵も積もれば山となり、結果は惨敗だった。11点差もつけられて負けたのだ。笑ってしまうほどにボロ負けだった。心配することなんてないと思っていたのに。

今日はダメかもしれない。

午前の部が終わり、私が恐れているリレーが近づいてくる。そしてここでまさかの悲報が飛び込んできた。

第1走者が足をひねってしまった。選抜リレーに参加できるかどうかは分からない。練習もほとんどなかつたので補欠なんてもちろんいない。

なんだか一気に風向きが変わったようだった。全ての雲行きが怪しい。

足を負傷してしまった仲間は応援合戦のダンスに参加できず、私はそのダンスで小さなミスをした。



Student's Essay << Sports Day >> 2/2

今の所、何も上手くいっていない。

私は最後の出番が始まるまでの残り時間を、リレーへの心配に費やしたのだった。

そしてとうとう最後の種目、選抜リレーがやってきた。

「足痛くないから走れる！」

私の不安を吹き飛ばすように、滝利とした声がした。最後の最後で、第1走者は私達リーメンバーの元へ戻ってきてくれたのだ。

明るい兆しは見えてきた。うん、いける。

割り当てられたレーンを確認し顔を上げると、見渡す限りの人、人、人。またもや不安の渦に飲み込まれそうになる。重い足でのろのろと第4走者のスタート位置に移動する。

遂にこの時が来てしまった。

大丈夫。たとえ盛大にずっこけたとしても3日後にはみんなほとんど忘れてくれる。なんてったって私は今日MVPなのだ。

静まり返った空間を切り裂くようにピストルの音が響いた。

相手チームにリードされてはいるけれど、これなら私で巻き返せる。直感的にそう思った。

いよいよバトンが手に渡る。その冷たい感触が思考に入ってくるよりも早く、私は走り出した。逆転してみせる。

ゴールラインを超えた瞬間に撮られた写真を後から見てみると、嬉しかったけど苦しいんだかぐちゃぐちゃな顔をしていた。今度からはもっときれいな笑顔で走らなければ。

とにかく、私達は一位を取ることができた。

その後のみんなからの反応と言ったら、まるでヒーローにでもなったかのようだった。

「めっちゃかっこよかった！」

「ここ二年で一番嬉しかったよ！」

なんだこれ。めちゃくちゃ良い気分だ。



終わりよければ全てよし。結局、幸せなことにこの一日は朝の予感が的中する形で幕を閉じた。

つかの間のMVPのような気分が私の心を踊らしてくれたのだった。

(高等部1年生 女子)



球技大会の様子は
こちらの動画でも
ご覧いただけます



ハーフターム



各国での入国制限を鑑み、今年のハーフタームも一時帰国は断念…。学内で過ごす1週間となりました。しかし、今年はちょっと特別だったんです♪

エリザベス女王在位70周年を祝う歴史的な記念イベント、プラチナ・ジュビリー (Platinum Jubilee) が各地で毎日のように行われていました。👑

立教でも6月3日、Street Tea Partyを行いました。寮から教室へと向かう道にずらりと並べられたテーブルとユニオンジャックは圧巻の光景です。✨

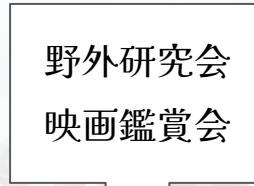


HALF TERM EVENTS

* Special Meal Day



生徒会主催
クイズ大会
(個人戦)



Japanese Night

28 May

29 May

30 May

31 May

1 June

2 June

3 June

4 June

5 June

* Chicken Curry Rice

Fish & Chips
Korean Night

Paella
Summer BBQ

* Ham Egg & Chips
Hog Roast

Ice Cream Van
* Pasta Day
Chinese Night

Jubilee Celebration
* Street Party
Pizza Night

* Udon Noodle
Rice Ochazuke

ドミトリー
替え

生徒会主催
クイズ大会
(クラス対抗戦)



国語の授業の取り組みで、中学1年生が
今回のプラチナ・ジュビリーについて調べ、まとめました！

世界初の70周年記念のお祝い

世界には、たくさんの王様や女王がいます。今回は、イギリスの女王に関する「プラチナ・ジュビリー」について紹介したいと思います。

皆さんは「エリザベス女王」を知っていますか？エリザベス女王は、普通の女王ではありません。各国の王様や女王とは異なる凄い記録を持っています。実は、このエリザベス女王は、世界の王様や女王の中で最も最高齢である人物です。今年で96歳になるそうです。96歳には見えないほど元気で、女王の公務もしっかりこなしているなんてすごいですよね。そして今年は、女王に即位して70周年にあたる年になります。この祝い事を「プラチナ・ジュビリー」といいます。

70周年以外にも、エリザベス女王の即位記念はこれまでに5回行われています、即位から25周年、40周年、50周年、60周年、65周年のときに行われました。即位記念の名前はそれぞれ異なっており、25周年は「シルバー・ジュビリー」、65周年は「サファイヤ・ジュビリー」という名前がついています。「ジュビリー」という名前は「主君の生涯を称える」という意味なので、毎回変わらないそうです。しかし、この「ジュビリー」につく言葉は年によって異なります。例えば、今回だと「70年=プラチナ」というらしく、それで「プラチナ・ジュビリー」という名前になったそうですね。宝石のような名前で美しいですね。

そして、なんとこの女王即位70周年の「プラチナ・ジュビリー」は英国史上初となるイベントです。そのため國中で大盛り上がりになることが予想されていました。イギリスだけではなく、世界中の国で取り上げられる話題となりました。アメリカやメキシコから、わざわざエリザベス女王を見ようとイギリスに来る人もいたそうです。この「プラチナ・ジュビリー」では、盛大なパレードがありました。例えば、1200人以上の兵士、200頭の馬、400人のミュージシャンが集まるパレードです。また、このイベントに合わせて記念のグッズなどが発売されていました。イギリスらしいティーカップや美しい5ポンド記念コイン、エコバックなどがありました。国から発売されている商品もありますが、各種の有名なブランドがこの「プラチナ・ジュビリー」のためにデザインした商品も多くあります。国民が考えた記念のケーキカットもあります。パレードが開催された4連休のロンドンは、とても混んでいてあちらこちらで、イギリスの旗やエリザベス女王の顔写真がメディアに取り上げられていました。これは、多くの国民がエリザベス女王の即位70周年を祝っている証拠ですね。

このように、「プラチナ・ジュビリー」は、英国初のイベントです。そのため、英国内に限らず世界中の人々がお祝いしていました。また、美しいデザインのグッズも多く販売されていました。私も家族へのお土産として買いたかったのですが、イベント期間中は立教英國学院にいたので、買えなくて残念でした。そして、エリザベス女王はまだまだ元気なので、女王即位記念式典の記録を更新するのではないかと思われます。どんなふうになるか、楽しみですね！

England Platinum Jubilee

プラチナムジュビリーとは、2022年に行われたイギリス女王の即位70周年をお祝いするイベントです。どうしてイギリスのトップである、エリザベス女王の70周年記念をプラチナムジュビリーとよぶのでしょうか。

まず最初に、「ジュビリー」とは、特別なイベント、またはなにかの記念を祝うことです。特に、25周年や50周年をお祝いすることが多いです。女王25周年はSilver Jubilee、50周年はGolden Jubilee、60周年はDiamond Jubilee、そして今年はエリザベス女王が女王になってから70周年目にあたるPlatinum Jubileeです。エリザベス女王の年齢が上がっていくに連れて、ジュビリーの素材も変わっていくことがわかります。これは、単純に歳を重ねるに連れて、その素材のレベルが良くなっているということです。

次に、イギリスの人々は、どのようにエリザベス女王の70周年を祝うのでしょうか。ジュビリーパーティーでは、イギリスの国民が集まり、BBQや、ケーキやティーなどを飲み、とにかくエリザベス女王の70周年をお祝いしました。イギリスではとても大事な行事になりました。その他にも、例えばサークัส、道でのストリートアート、バッキンガムパレスなどでのお祝いがありました。

イギリスでは、コロナでNHSの方々が毎日ひまなく働き続けてきました。そんなNHSの人たちは、プラチナムジュビリーでどのようなお祝いをしたのでしょうか。実は、NHSの人には、バッキンガムパレスのステージのすぐ近くに立つことができる招待状が送られており、参加できる人たちはお祝いの席に参加しました。

6月2日木曜日から、エリザベス女王の70周年をお祝いする日が始まりました。これも全部イギリスの祝日、バンクホリデーが伸びた中の一日です。ここではRoyal Gunというものが打たれます。これがプラチナムジュビリーのスタートです。1200人以上の兵士と、約240頭の馬が歩きました。他にもイギリス全国に約1500のビーコンに火をつけたものが置かれます。これはイギリスが昔からやっていることです。

6月3日金曜日には St Paul's Cathedralでエリザベス女王への感謝の気持ちを込めてお祝いをしました。どうしてSt Paul's Cathedralで行われたのかというと、一番大きなベルがあるからです。

そして6月4日土曜日には、The Derby at Epsom Downsというものがありました。これは、ロイヤル・ファミリーが競馬を見に行く日です。翌日の6月5日日曜日はお祝いをする最後の日でした。僕達が立教英國学院でやったように、長長いテーブルでビッグランチを食べます。ここでは食べ物を交換したり、お互いにたくさん話をし、エリザベス女王のお祝いをしました。これはイギリス中のほぼみんなが行うものです。

最後にThe Platinum Jubilee Pageantという、ページェントが行われました。エリザベス女王が真っ金色の馬車に乗ったり、たくさんの人がカラフルな洋服を着て、エリザベス女王の70周年をお祝いしました。

プラチナムジュビリーとはいまで、一番レベルの高い、エリザベス女王のお祝いをする日です。家で一日だけテレビを見て祝うのではなく、色んな人と、色んな場所、違う日に違う意味を込めて、エリザベス女王のことを祝うときのことです。

現地校交流

Dartford Grammar School



今学期一番の暑さとなった6月17日、Dartford Grammar School (DGS)の生徒たち35名と先生方2名が立教を訪問し、本校の中学生と交流を持ちました。

まずは剣道場にてお互いの自己紹介から始まり、その後は立教生とDGSの生徒それぞれが4グループに分かれてペアになり、折り紙、書道、剣道、茶道の4つのアクティビティを一緒にまわりました。

当日は小学生が剣道のデモンストレーションをしたり、中学生をはじめ高校2年生が茶道のお点前を見せてくれました。

また一緒に日本のカレーを食べたり、午後には長縄を通してのスポーツ交流も行いました。



交流の
様子は
こちらから




Student's Essay << With DGS >>

私は現地校の人との交流をした。

最初は自己紹介をした。初対面の人と1対1という場面ではあったが、英語の授業などで事前に言う言葉を確認していたので基本的な会話はすることができた。今回交流した人たちは日本語を学習しているということでお互いに母国語以外の言葉を勉強しているという共通点があったので、言語について話したりもした。

もし単語を知っていたとしてもいざ現地の方と会話するとなるとなかなか単語が出てきてくれないということに気がつけたのだ。折り紙企画で説明するときに「折る」という単語がなかなかわからなくて、最終的に「like this press」という説明をしていた。きっとわかりにくい説明ではあったと思うが、最終的に形のある1つの作品が完成したときの達成感は本当にすごかったし、嬉しかった。そして、相手校の人達もすごく社交的で優しい人だった。

これからもこのような機会があれば、頑張って英語を使ってコミュニケーションをして英語力を上げたり、文化交流を楽しみたいと思った。

(中学部2年生 女子)



最初会って自己紹介をするときは、同級生だとは思えない身長の高さで、頭を上に向けないと顔を見て話すことができないくらいでした。

しかもお互いの母国語も違ううえに私は他の人に比べて英語があまり得意ではないのでコミュニケーションも自分のしたいようにできませんでした。

しかし、折り紙や書道と一緒にやっていくうちに、完璧な文章では話せなくても、ジェスチャーや単語をいくつかいえば、言いたいことが伝わるのです。

そして、縄跳びを一緒にやっている時にはもう言語なんて関係ないなと思えるほど一緒に楽しく遊ぶことができました。

私は初めて現地の英国の方に自分の伝えたいことを伝えられたのが嬉しくて、Dartford Grammar Schoolの生徒と会話をするのが楽しくなりました。

また、改めて心の底から英語をもっと勉強して、コミュニケーションをたくさん取れるようになりたいと思いました。

なので、これからは今まで以上に英語を頑張って、将来、英語でお仕事ができるくらい上手に話せるようになりたいです。

(中学部2年生 女子)

DGSの公式HPにも今回の出来事が紹介されています！
(下のロゴからアクセスして、下部の

[「Enter the full Dartford Grammar School website」](#)

というところクリックしてください)





新年度、初めてのバレーボールの対外試合が行われました。

今回の試合はEpsom Collegeという学校で行われました。
男子チーム、女子チーム含めて8チーム参加の総当たり戦でした。
立教から出場したのは男子バレーボール部の18人です。

アウェイという慣れない環境の上、屋外の試合で、身長差がある相手との戦いでしたが、声をかけ合い、苦しいボールもなんとかつなぎ、結果は準優勝。
また、チームメイトが実践でプレイするのを見て色々学ぶこともできました。

表彰式の後は、時間が少し余ったので、Epsom College の選手と軽くゲームをしました。

試合のときは違い、堅苦しい雰囲気はなく、ラフにプレーをすることができました。

スポーツを通してコミュニケーションをすることによって、伝えたいことがより上手く伝わったと思います。

日本では経験できないような貴重な体験ができました。

(中学部3年生 広報委員)



対外試合

-男子バレーボール部-



みどりあふれる 立教



みなさんは
『ハンギング・バスケット』
というものを知っていますか？

寄せ植えして花かごにしたバスケットを軒先につるし、街や家々の飾りにするもので、英国の夏のガーデニング文化のひとつです。今年は、学校が創立50周年、そして英国のエリザベス女王の在位70周年記念ということもあって、立教英國学院の中でも丁寧にガーデンづくりやハンギング・バスケット飾りをしました。英国カラーの赤、白、紫（青の代わり）をイメージして彩られた校内は、とても華やかで、英国らしさに満ちています。

ハーフターム中には中3生の希望者で、ハンギング・バスケット作りもしてみました。実際にガーデンセンターを訪れ、花々を見ながらイメージをふくらませていきます。紫色を中心に決めて、白や黄色を混ぜて華やかに。戻ってきたら寄せ植えです。だんだん大きくなっていくのですが、花かごへの期待がふくらんでついついぎゅっと。色や花の大きさなど、配置を考えながら植え込んでいきました。教室の生徒達から見える場所に吊り下げて、学期中大きく育つ様子を見守ってきました。次々に花が華やかに咲いていく様子はとてもうれしいもの。7月中旬になって生徒たちは帰宅してしまいましたが、今も校内を美しく彩っています。



7名という少ない人数ながら、中高生に負けないくらい元気いっぱいの小学生。休み時間は毎日外で鬼ごっこや紙飛行機！

そんな小学生は、今学期、総合的な学習の時間に、イギリスの伝統的な朝食「English Breakfast」について学習しました。日本ではご飯とおみそ汁のような立ち位置です。地域ごとにメニューの違いはあれど、どれもボリューム満点！その理由は、労働者階級が朝からエネルギーを蓄えるためだったと言われています。

学習の仕上げとして、近くのカフェに実際に食べにも行きました。事前に英語での注文の仕方も勉強して、みな思い思いの朝食をいただきました。

学期の末にはミニアウティングに出かけました。行き先は、くまのプーさんの舞台となったHartfieldという、緑がいっぱいの森です。1時間以上散策した後は、プーさんのティールームでクリームティーをいただきました。本場イギリスでいただくスコーンやクロテッドクリームを口いっぱいに頬張りました。



小学部外出

-総合・ミニアウティング-



創立50周年記念感謝

並びに 2022年度第1学期終業礼拝



7月9日(土) 創立50周年記念感謝並びに2022年度第1学期終業礼拝が執り行われました。

まだまだコロナの影響が色濃く残っているため、ご来場がかなわない方のために、今回は複数のカメラとマイクを設置し、大規模なライブ配信を行いました。

1972年に設立されてから50年。地域の方々をはじめ、たくさんの方々に支えていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。



Address

from Mr. SONOBE Kenji,

Counsellor and Consul, Embassy of Japan in the United Kingdom

祝辭

在英國日本國大使館
參事官兼領事 園部健治 様

Good morning.

Distinguished Guests,

Ladies and Gentlemen,

It is my great honour and privilege to join you here today as we mark the fiftieth anniversary of the founding of RIKKYO School in England. And to share with you all today, a very deep sense of sadness following the tragic passing of the former Prime Minister of Japan, Mr. Abe Shinzo yesterday. May his soul rest in peace.

The Analects of Confucius have been part of the Japanese way of life for a very long time. According to Confucius, reaching the age of fifty is a major juncture in life, as it is at that age that one comes to know the will of heaven. RIKKYO School in England, founded in 1972 with 19 students at Primary level, reaches its fiftieth anniversary this year, a major milestone in the history of the school.

Let us now look back to 1972 and see what was happening in the United Kingdom, in Japan, and around the world.

In 1972, Pound Sterling switched to the floating exchange rate system. The Conservative government, under Prime Minister Ted Heath, signed an agreement to join the European Economic Community, a decision we very much feel the historical significance of today, as we're living in the post-BREXIT era.

The first Summit of the Leading Industrialized Nations, commonly known as the G7, of which both the UK and Japan are members, was not held until one year later in 1973 and we had to wait a further 3 years until the conclusion of the ceasefire agreement to end the Vietnam War.

Prime Minister Boris Johnson was only eight years old, and I doubt whether little Boris could ever have imagined the position he would be in today.

On the other hand, while Japan was experiencing rapid economic growth in the early 1970s, 1972 was a turning point in Japanese postwar political history, with the reversion of Okinawa to Japan and the normalization of diplomatic relations between Japan and China, Japan was becoming a major player in international politics.

Whilst in 1972, Japan and the UK had already experienced almost 100 years of bilateral relations, we should bear in mind, that this was just 27 years after the end of the Second World War, with still vivid memories of war and animosity toward Japan.

I do therefore admire the decision of the founders all the more, as it must have taken tremendous courage and firm resolve, in addition to their passion and foresight, to found this School with the ambition of educating the next generation, ready to play their role in the international arena, and to help Japan build towards its future.

I can imagine that the founders faced many hardships in the run up to the founding of the school, despite their tremendous efforts. Considering that the school has produced many graduates who made significant contributions to their respective fields, both in Japan and around the world,... I think all those here today, and all those who have contributed to the development of the school, will agree that the decision made to found this school 50 years ago proved to be a most excellent one.



Address

from Mr. SONOBE Kenji,

Counsellor and Consul, Embassy of Japan in the United Kingdom

祝辭

在英國日本國大使館
參事官兼領事 園部健治 様

On this commemorative occasion, I would like to express my sincere appreciation to all those connected with the school, and to the local community that welcomed the School and its students, extended a helping hand and watched them grow. Above all else, I have a growing feeling that the founding of the School was only possible in this place, the UK having a long history of tolerance, cultural diversity and friendship towards international students. Thank you.

Now, I would like to say a few words to the students.

Please do not forget, that each one of you have been granted a wonderful opportunity to study at this fantastic institution thanks to your family, teachers and many others.

With so many challenging issues in the foreseeable future, nobody can deny that each one of you will be living through a very difficult period in the years to come, wherever you are in the world. Changes will come quickly and in unprecedented ways. You will live in a world where nothing will be certain and you can take nothing for granted. However, it is exactly these challenges that should make you excited for what the future holds.

What you will need in these circumstances is integrity as a human being as well as pride and self-awareness of being Japanese, with the noble spirit, courage and resolve of the founders passed down from generation to generation. Please enjoy every moment of your life here, and make the most of every opportunity to fulfil your potential.

I would like to conclude my speech by mentioning one way of referring to the number 50 in English.

You may agree with me that the number 50 (five zero) is usually pronounced "fifty". However, in the UK and other Commonwealth nations, it is commonly referred to with pride and a sense of achievement as "Half Century". Yes, in the world of cricket.

A cricketer feels pride and joy when reaching a "Half Century". But we should not forget that a "Half Century" cannot be achieved on your own, no matter how good one's batting technique and ability. The Partnership between two cricketers is crucially important when batting. Reaching a "Half Century" is an achievement in itself, but is also one step towards the greater achievement of a "Century", and beyond.

I have no doubt that the "Half Century" reached by RIKKYO School this year is just one step along the path to achieving a "Century" here in England, in the home of cricket. We should not forget, however, that RIKKYO School needed to be part of a great partnership to achieve this, and I firmly believe that Japan and the UK are the best partnership ever to achieve this tremendous "Half Century" and the best possible partners to play on to reach a 'Century' in the years to come.

It is my great honour, therefore, to reaffirm, and to share this sense of pride and joy with you all here today, as we mark fifty years of RIKKYO School in England.

Thank you.



Student's Essay ≪ Closing Service ≫



沢山の支えがあって

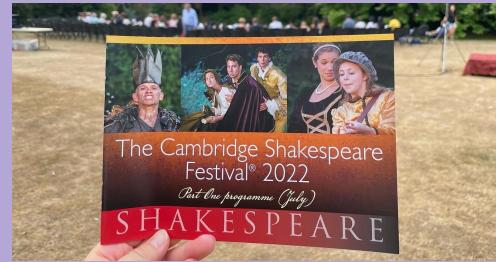
赤いレンガと自然に囲まれた立教英國学院は、沢山の笑顔と歴史を作りながら2022年50周年を迎え、式典が行われました。学校では日本人の教員による授業や、英国人の先生方による英語の授業、国際交流、イベントや行事など充実した毎日を送っています。私は長期休みを終え、毎回学校に戻ってくるたびになんだかホッとした気持ちになって、笑顔でいっぱいの毎日を過ごしています。寮生活で過ごす仲間と笑い合ったり、時には喧嘩したりしながら育まれる友情は今も昔も変わらない学校の温かい空気を作り出しています。50年経っても受け継がれてきているのは、30年から40年以上も立教英國学院に携わってきた先生方や事務の方、地域の方をはじめとした沢山の人の支えがあってこそ迎えられたものです。私はいつまでも他者を思いやる心で溢れた温かい立教英國学院が変わってほしくないし、その伝統を何年経っても受け継いでいってほしいです。英国で学べること、仲間と共に成長できること、沢山の方々の支えがあることに感謝の気持ちを持って、残された日々を全力で楽しみたいです。

(高等部2年生 女子)



再開！

ケンブリッジ 大学研修



2022年の夏休み、3年ぶりにケンブリッジ大学研修を再開することができました。

高校2年生6名と高校3年生31名の生徒たちが、ケンブリッジ大学のフィッツウィリアムカレッジに滞在しながら毎日貴重な体験をしています。

フィッツウィリアムカレッジのキャンパス内には自然学者であったチャールズ・ダーウィンが亡くなった後、その奥様が住んでいたというThe Globeという建物も残っています。

広いキャンパスの中には、Student Pub（昼間はカフェとして使える場所）やCanteenと呼ばれるダイニングホール、クラスルームがあり、午前中は毎日このキャンパスの中で学びを続けています。

学生寮の目の前には様々な花や植物、野菜が植えられた庭が広がっています。このカレッジでは学生たちが庭の芝生の上でくつろぐことが許されているので、夕方には立教の生徒たちも庭で勉強したり、夕涼みをしています。



Photo Report



カレッジを
バックに📸

Cambridge
での様子は
👉こちらの
動画からも
ご覧
いただけます

フォーマル
ディナー🍴
少し緊張?!



コース料理
おいしそう～
😊



キングズ
カレッジの
チャペル訪問



シェークスピアの
キャストさんに
偶然遭遇！✨



Official Instagram



このQRコードから
アクセスできます！

A grey arrow points from the text above to the QR code on the left.

Instagram

rikkyouk フォローする ...

投稿76件 フォロワー825人 フォロー中3人

立教英國学院Rikkyo School In England
学校
立教英國学院の公式アカウントです。四季の移り変わりをテーマに、立教英國学院の今を紹介していきます。
いただいた質問等はお答えしていません。
www.rikkyo.co.uk

この目標の
年内フォロワー
1000人まで
あと少し！

1学期 オフショット



Rikkyo School
In England

Official
Home
Page

www.rikkyo.co.uk

Information

ご意見・ご感想はこちらへどうぞ。

>>> publicrelations@rikkyo.co.uk